

都留第二中学校だより

日新

校訓 日新
学校教育目標
・美しい心
・輝く知性
・たくましい体

都留第二中学校学校だより

NO17

平成29年12月25日(月)
文責 小俣 一夫

花咲く春を迎えるために この冬休みが頑張りどころです！

84日間あった2学期が今日で終わります。皆さんはどんな2学期でしたか？・・・というより、どんな2学期にしましたか？たぶん、3年生にとってはあっという間の2学期ではなかったでしょうか。もっと時間が欲しいと思っている3年生が多いのではないかと思います。進路が決定する3月までの時間は、なかなかゴールの見えない山登りのような感じでしょう。自分がどこまで来ているのか、この先どれだけ登らなければならないのか、先が読めなくて不安になったり疲れてきたり、投げ出したくなっていたりしているのかもしれない。でも山登りは一度始めたら、てっぺんまで登りきるか、そこから引き返すかしかないのです。都留二中の3年生としては、ここで引き返すことはできないでしょう！・・・だとしたら、とにかく一歩一歩足を進めていくしかないと思います。



4月 校舎前の桜です！

さて、頑張った2学期を振り返ってみたいと思います。

「あい ～時の流れを越えていく～」のテーマを掲げ取り組んだ石花海祭、準備と練習の日々を思い出してみてください。残暑の日、体育館で取り組んだ劇の練習、額から流れ落ちる汗を拭きながら、友だちとの協力の中で取り組んだ石花海祭でした。「夢屋」「夏休み」の長編の劇 日本の文化「和」をイメージしての発表、各学年ごと目指すテーマに向けて取り組み、成功させることができました。ムカデ、長縄も記録を出すたびに一喜一憂の頑張りでした。その懸命な取り組みがあったからこそ、閉祭式で感じた、やり終えた後の充実感、満足感、達成感等々、様々な経験ができたのではなかったでしょうか。

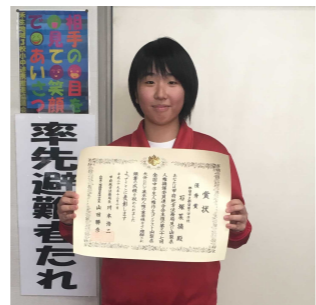
さらに、あの石花海祭から、3ヶ月、日々の授業とたくさんの学校行事がありました。

班員相互の話し合いでより学習が深まったグループ学習、学年集団で学びあったE S Dエネルギー体験学習、働くことの大切さと大変さを知った職場体験、座禅を通して自分の心と向かい合うこともできました。また、学級や部活が一つになった市内親善音楽会や地域の人々と交流した文化部ふれあい活動、県優勝に輝いた女子剣道部や県2位の女子弓道部、ベスト8の女子テニス部、各部が全力を出して頑張った新人戦でした。「率先避難者たれ」を考えた防災訓練、家庭学習の方法やスマホの使い方を振り返り、今の自分に生かせるようになりました。さらに、進路選択に重要な教達検 来年度に向けての生徒会役員選挙、冷静に今の二中を振り返った生徒総会等々、頑張ってきた皆さんだからこそ、今の自分に自信を持って、この冬にしっかりと力を蓄え、次のステージに向かってほしいと思います。

花の咲かない寒い日は下へ下へと根を伸ばせやがて花咲くときがくる！

冬は力を蓄える季節です。今年の冬は3年生にとっては、試練の冬になると思います。秋から、それ以前から悩んで悩んで選択した進路を実現できるかは、この冬の陣にかかっています。「冬休み」の間にこそ、どう戦い、どれだけ充実したときを過ごすかが重要です。必ず来る「春」を信じ、どう考えて、何を実行するかということだと思います。季節は間違いなく日々動いています。「花咲く春」はまちがいに訪れます。そのときに、どんな花を咲かせられるかは、あなたの頑張り次第です。

あなたの今を変えられるのはあなただけなのです。あなたのことを大切に思ってくれている人も、あなたのために力は貸してくれますが、実行するのはあなた自身です。例えば、『馬を水飲み場に連れていくことはできても、水を飲ませることはできない。』という諺があります。馬に水のある場所を教えることはできても、馬自身が飲みたいと思って、自発的に飲む、ということをしなければ、無理やり水を飲ませることはできない、という意味です。



税の作文「優秀賞」3年石塚菜摘さん

1年生、2年生にとっても同じだと思います。例えば部活です。春の選手権や夏の総体で結果を出すためには、この冬が勝負です。走り込んで足腰を鍛えたり、基礎練習で基本を再確認したり、やることはたくさんあると思います。勿論、やがてくる、進路決定の時期に備えることも大切です。

「つらいのは、頑張っているから 迷うのは、進もうとしている」からなのです！

各自が、自分の夢や目標に向かって、この冬休みを有意義な時間として、確実に前進していきましょう。

避難訓練と消火訓練を実施しました！

12月4日(月)5校時に火災を想定した、今年度3回目の避難訓練を行いました。12月に入って、教室でも毎日ストーブを使い始めました。皆さんの家庭でも、もう使っていると思います。

先日の避難訓練の際に現在、「皆さんの暮らす地球上で近年、恐いものには何がありますか？」と全校生徒に聞いたところ、数人の生徒から「お母さん」という声が返ってきました。・・・お母さんの恐いのは自分の行いを振り返れば、当然のことかも知れませんが・・・

ここで聞きたかったのは、①地震や津波 ②台風等による豪雨や土砂崩れ ③噴火 ④北朝鮮のミサイル ⑤火災なのです。

「備えあれば憂い無し」という諺もあります。火事や地震に対して日常的にしっかりとした準備や訓練をしておけば、いざというときにも慌てず落ち着いて避難ができると思います。中学生は「守られる人」ではなく「守る人」だということを肝に銘じて、周りに声をかけながら、積極的に「率先避難者たれ」が実行できるような心がけていきましょう。



消火器を使っの消火訓練

学年代表 左から 後藤大機さん・鈴木皓士さん・坂本一真さん・高部先生・小笠原先生



生徒総会で発言の野澤くん



←全校がグラウンドへ避難 緊張感があつたかな？



生徒と向き合う時間を大切に！

平成32年度から実施される新学習指導要領(中学校)において、文科省は社会環境が急激に変化する中で、「生きる力」をはぐくむという理念を実現するに当たっては、個々の子どもたちの理解や習熟度に応じたきめの細かい教科指導、実験・観察、レポートの作成や論述といった知識・技能を活用する学習活動、職場体験活動といった体験活動などの充実が学校全体で取り組むことが必要であると示しています。そこで、教師がよりきめ細かい、生徒一人一人のニーズに応じた教育を実施していくためには、生徒と向き合う時間を十分に確保することが重用であり、そのためには、それに要する教師数を確保する観点から、教職員定数の改善が重要であるとしています。また、外部人材の活用や地域全体で学校を支援する体制の構築なども求めており、そのことにより、生徒と向き合う時間を効果的・効率的に活用する必要があると考えているからです。



2年生座禅体験 東桂 宝鏡寺にて

生徒の一日の生活時間の中では、学校で生活する時間が最も長いはずですが、中学生は、就寝時間よりも長い時間を友だちや教師と学校で一緒に過ごしています。学校生活が「元気で楽しく」なければならない理由はそのことにあります。毎日のことなので、それほど真剣には考えずに当たり前のように過ごしてしまっていますが、中学生にとっては、誰が近くにいるのか？友だち関係が良好か？居場所があるか？などが元気で楽しく過ごせる一つの要因となります。

そんな中、長い時間学校にいるのだから、担任は常に生徒と向かい合っているのだろうと思いがちですが、学級担任制の小学校とは異なり、教科担任制の中学校では、担任だとしてもクラスの全ての生徒と話をすることは難しい現状があります。授業で向き合う時間は、クラス全体と教師という状況になり、自分の担当する授業中に顔を見ても、朝の学活で気になる表情をしていた生徒と一対一で話をする環境にはなりません。

12月の21日～22日の2日間で3者懇談を実施しました。担任から懇談の様子を聞くと、「より生徒を知る、より家庭を知る機会となった。」ということで、有意義な時間を、保護者、生徒、担任で共有できたと感じています。「生徒と向き合う」という基本的なことを大切に2学期を締めくくりたいと考えます。